



シードリングストーン



～みんなでお手軽に海藻の種子をまきましよう～

「シードリングストーン」とは「芽生えにつながる石」という思いを込めた言葉です。ここでは「アラメ」の母藻の設置について説明します。

《準備するもの》 ・こぶし大の石 ・麻紐 ・成熟したアラメ

《手 順》

- ① 石に麻紐が 50cm ほど垂れるように結びつけて、反対側に成熟したアラメの母藻を結びつけます。
- ② アラメを少し乾かします。感じとしては酢コンブくらいです。
- ③ 船の上から設置区域に投入します。

アラメは海中に投入されるとすぐに遊走子を放出し始め、遊走子は数時間～1 日で周囲の岩盤上に定着します。アラメの場合、遊走子の放出は投入直後から数日の間に集中するため、大きなおもりを付けて長期間固定する必要はありません。麻紐は 1 週間程度で自然に切れ、アラメはウニやサザエのエサになります。

この方法の利点は「成熟したアラメの見分け方さえわかれば、道具の製作やアラメの設置に手間がかからず、実施後にはすべてのものが自然の状態に戻る」ということです。必要な予算は、麻紐代の数百円だけですので、とても簡単に実施できます。実施する海域は事前にウニなどの食害生物を取り除いておくと、より効果的です。



成熟したアラメの母藻の葉体では、少し厚みがあり色が濃い部分に遊走子が含まれています。この部分は指で触るとぬるぬるとしたぬめりがあるので、すぐに見分けることができます。



11 月、山口県長門市黄波戸に設置した「シードリングストーン」の海中での様子です。写真の石は地元の保育園の皆さんが海への思いを込めて色を付けてくれました。

「ふるさとながとの海洋緑化プロジェクト」は競艇の交付金による日本財団の助成を受けて実施しています。



日本財団 助成事業
The Nippon Foundation